

やまがた創生便り

第10号
2018.8.24

COC+参加大学等で行っている地方創生に関連する取組を報告いたします。

東北芸術工科大学

デザセンJr.(中学校デザイン選手権大会)を通じて地元中学校にデザイン思考を

本学では2016年度より山形県内の中学校を対象としたデザインコンペ、「デザセンJr.」(中学校デザイン選手権大会)を開催しています。「デザセンJr.」は毎年、「身近な問題解決から世界を変えよう!」をテーマに、中学生の視点で問題点や課題を見つけてもらい、その解決方法を募っています。

2回目の2017年度は前年度比3.7倍の117チームの応募があり、入賞5チーム、入選6チームを選出、2018年3月3日の決勝大会では入賞チームが順位を競いました。審査員には、中学校とも連携してデザイン思考を研究している本学教員6名のほか、そのデザイン活動が評価されている卒業生2名もゲストとして参加しています。

この大会を通じて本学は中学校教育におけるデザイン思考の重要性を説いていますが、今後はその活動に共鳴してくれた地元中学校の教員の方々が、自ら研究会等を組織し、この運動を更に育ててくださることを期待しています。



参加中学校教員の声

客観的な評価を生徒の学びにつなげたい

山形県立東桜学館中学校 教諭
木村聡子

本校では、総合的な学習の時間の中で、未来創造プロジェクトと題して探究型学習に取り組んでいます。昨年度はその成果をもって「デザセンJr.」にエントリーし、準優勝チームを輩出いたしました。学習の成果について、大学の先生方から客観的な評価をいただくことで、生徒たちのさらなる学びにつなげていくために参

加しています。

本校では探究型学習を進めるにあたり、デザイン思考を取り入れてスタートしました。生徒の課題意識、論題が、進めれば進めるほど、空回りしたり、壁に当たったりしますが、それ自体が学びなのだと思います。今後は、論題のつかみ方や教師のねらいの下ろし方をもっと考えたいと思っています。

「デザセンJr.」は、探究型学習やデザイン思考が今後の教育に重要であることを考えていくためにも、意義ある大会だと思います。

東北公益文科大学学生×地域共創コーディネーター×舟形町役場若手職員×舟形町の町民の皆様＝住民主体の地域づくり事業の展開

東北公益文科大学公益学部 教授
武田真理子

舟形町では、少子高齢化・人口減少時代のこれからの地域づくりを推進するために、35の全町内会において町職員がファシリテーターとなって、住民ワークショップを開催し、対話を重ねながら地域課題やその解決方法を地域計画にまとめる「住民主体の地域づくり事業」に取り組んでいます。平成30年度には東北公益文科大学及びCOC事業を機に活動を広げている地域共創コーディネーター養成プログラム運営委員会が同事業の運営支援を行うための業務を受託し、町職員の研修、会議へ

の参画等、伴走活動を続けています。この貴重な実践の場からの学習効果が期待できることから公益学部の科目として、「プロジェクト型応用演習（舟形町の住民主体のワークショップを企画・提案し実践する）」を4月から開講し、2・3年生14名が舟形町職員や住民との交流を深めながらワークショップの企画・提案に挑戦しました。7月から実際に始まった町内会ワークショップにおいて、学生たちはテーブル・ファシリテーターとして参加をする予定です。さらなる出会いとその化学反応を楽しみにしています。



受講学生の声

公益学部2年
成澤芽衣

この事業ではファシリテーションの理論、技法の習得から、町内会ワークショップ、学生が企画したワークショップの発案と一連して関わることができ、力がついた実感がありました。またワークショップを実践させて頂いたことは、緊張感やうまくいかなかった事などを体験したり、対話を通して皆さんの気づきがあったりと、とても有意義なものになりました。学生が企画したワークショップ案の中で学生ならではの視点を舟形町職員の方から評価されたことは大変嬉しいことでした。この事業で身についたファシリテーションスキルを、是非私の地域でも活かせるようチャレンジしたいと思います。

公益学部2年
佐々木優里

舟形町の方と実際に話をすることで、町民が思っていること、行政が考えていることをワークショップを通じて知ることができました。一人一人が不安、希望、提案を持っている中で、それをどう表面化して行くのが難しいと感じました。自分たちの問題であることを自覚し意識して行くことで、行政に頼りきりではなく自分の住む街を変えるのは自分だと気づき、より良いまちづくりに繋がっていくのではないのでしょうか。ワークショップという、肩書きから解放されて話し合える場を通し、まちづくりに関わることができ、本当に良い機会を与えていただきました。

【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室(発行) TEL: 023-695-6264, 6266
山形県立米沢栄養大学総務企画課 TEL: 0238-22-7330
鶴岡工業高等専門学校総務課 TEL: 0235-25-9453
東北公益文科大学地域共創センター TEL: 0234-41-1115

E-mail: cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail: jimuyone@yone.ac.jp
E-mail: kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp
E-mail: coc-staff@koeki-u.ac.jp

COC+連携自治体の取組

COC+連携自治体の地方創生や人材育成・定着に関わる取組を報告いたします。

山形県

山形県では県外に人口が流出する社会減が進んでいて、特に高校や大学の卒業時に県外に転出する若者が多い状況です。

一方で、雇用情勢の改善が続き、県内企業の人手不足感が強まっていることから、若者の県内定着・回帰の必要性がますます高まっています。

こうした中、県内産業界を担うリーダーとなる人材を確保するため、県では、平成27年度から市町村や産業界と連携して「山形県若者定着奨学金返還支援事業」を実施しています。この事業は、奨学金の貸与を受けながら学ぶ大学生等を対象に、本県への定住・就業を条件に奨学金の返還を支援するもので、大学等に在学中、またはこれから進学予定の方（県内高校を

卒業、又は卒業予定の方に限る。）が申請できます。

応募方法や事業の詳細は県または市町村の担当窓口までお気軽にお問い合わせください（下のQRコードを読み取ると本県の専用ページにアクセスできます）。



◀山形県若者定着奨学金返還支援事業の詳細についてはこちらから



山形市

山形市では、平成27年度より、東京都内において、市内の企業の合同企業説明会「山形ワークフェスin東京」を開催しております。平成28年度は山形労働局、ハローワーク寒河江と共同で開催、さらに平成29年度は山形県とも共同で開催となり、2日間で138社が出展する大規模な合同企業説明会となりました。これに加え、平成29年度は、仙山連携推進事業として仙台市との共同開催で、仙台市内での合同企業説明会も開催しております。

また、様々な大学等での説明会も開催しており、新潟大学で「就活応援☆山形フェスin新大&OB・OGとの懇談

会」、専修大学で「JOB Cafe YAMAGATA」、東京都内のやまがた育英会学生寮で「ヤマガタでハタラクを語る」を開催し、学生の山形市への就職活動に関する情報交換や支援事業のPR活動も行っております。今後も各種の施策を通して、地域への若者定着の推進に取り組みたいと考えております。



米沢市



米沢市は、山形大学工学部のほか県立米沢栄養大学・米沢女子短期大学の3大学が立地し、合わせて3500人超の学生が生活する学園都市です。

進学を機に郷里を離れ本市で新生活を始める学生が、卒業までの数年間で米沢のことをより知って好きになっていき、結果として、卒業後の進路を考える際には「市内企業への就職」も選択肢となるよう期待し実施している取組の一部をご紹介します。

●米沢のよさを知るバスツアー

本市自慢の伝統文化・食・温泉などをバスで巡りながら体験してもらう事業

●セカンドホーム事業

学生を一般家庭などに迎え入れていただき、晩ごはんをご馳走になりながらまちの話題などで歓談し交流を深めてもらう事業

●米沢市民カレッジ山大編

山工工学部の授業に学生と一般市民と一緒に参加し、共に学びながら授業の内容や地域の話などで意見交換し、交流を深めてもらう事業

その他様々な取組を通して、今後も若者の定着を推進してまいります。

東北芸術工科大学法人運営課 TEL: 023-627-2089
東北文科大学運営企画室 TEL: 023-688-2298
米沢市総合政策課 TEL: 0238-22-5111 (内:2810)
鶴岡市政策企画課 TEL: 0235-25-2111 (内:525)
長井市地域づくり推進課 TEL: 0238-87-0817
遊佐町企画課 TEL: 0234-72-4523

E-mail: c_o_c@aga.tuad.ac.jp
E-mail: soumu@t-bunkyo.ac.jp
E-mail: chiiki-t@city.yonezawa.yamagata.jp
E-mail: n-chiiki@city.nagai.yamagata.jp
E-mail: kikaku@town.yuza.lg.jp

COC+参加大学等の活動



政治参加講座

地方創生は一票を投ずることからも始まります。新たに選挙権を得る本校3年生に対し、国会から県政・市政に渡って興味を抱かせ、

投票を促すために政治参加講座を企画し、模擬選挙を実施しました。市選挙管理委員会のご協力により、記載台、投票箱、投票用紙など、実物同様のものを準備し、受付、記載、紙を折っての投票と一連の流れを学びました。



投票の様子



山形県公式動画チャンネル『やまがたChannel』

山形県公式ホームページ「やまがたChannel」で公開する「若者視点による山形の魅力を発

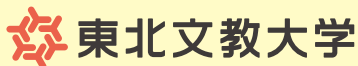
信する」動画制作を、2010年から映像学科2年生が全員で取り組んでいます。取材や撮影協力を通じて、県民や地元企業の方と触れ合い、映像で地域の魅力や課題を伝える。その経験により「地域で映像制作する」仕事に関心を持つ学生もいます。



Koeki Kids Project

子どもの頃に「公益」の視点で物事を考える機会をつくることを目的に、大学生が小学生、中学生を対象に「公益を考える授業」を実

践する公益大ならではのプロジェクトです。酒田市を中心とした庄内地域の小学校、中学校の先生方から協力を得ながら、教材開発や指導案作成、授業を実践しています。また、中学生に学習サポートも行っています。



公開講座の実施

東北文教大学では、学生のためにはもちろんのこと、地域の人々のために、生涯学習の場として公開講座を実施しています。今年度

は「小学校における英語教育」、「小学校におけるプログラミング教育」、「児童との関わり方」をテーマにした研究会や英会話集中コースなど様々な公開講座を開催しています。



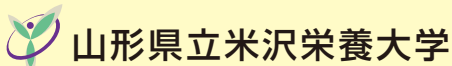
地域連携活動の本質を考える

近年、まちづくりは大型化する傾向にありますが、人文社会科学部の「地域構造論」では、中山町の草の根的なまちづくりに対する

支援活動を授業の単元に組み込み、地域連携活動の本質を見極めようとしています。住民に楽しみややりがいを感じさせる支援活動とはどのようなものか、客観的な思考がより効果的な活動に繋がると考えています。



復活された村まつりの支援



「栄養バランス診断」イベントへの参加

本学では、年に数回イオンモール等のイベント会場において、食育SATシステム(実物大フードモデルを選んで乗せる体験型栄養

教育機器)を使用した栄養バランス診断を実施しています。学生達はこのような地域の活動に参加しながら、本学の目的である「県民の健康で豊かな暮らしの実現に寄与」できる管理栄養士を目指しています。

